

都市再生整備計画(第3回変更)

しばたまち ふなおか
柴田町都市拠点(船岡)地区

宮城県 しばたまち 柴田町

令和8年3月

| 事業名 | 確認 |
|-------------------------|----|
| 都市構造再編集集中支援事業 | ■ |
| 都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金) | □ |
| 都市再生整備計画事業(防災・安全交付金) | □ |
| まちなかウォークアブル推進事業 | □ |

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式（1）-②

| | | | | | | | | |
|-------|-----|------|--------------|------|------------------------------------|----|-------|----|
| 都道府県名 | 宮城県 | 市町村名 | しばたまち 柴田町 | 地区名 | しばたまち 柴田町都市拠点（船岡） ふなおか 地区 | 面積 | 126.9 | ha |
| 計画期間 | 令和 | 5 | 年度 | ～ | 令和 | 9 | 年度 | |
| | | | | 交付期間 | 令和 | 5 | 年度 | ～ |
| | | | | | 令和 | 9 | 年度 | |

目標
 大目標：都市機能の集積による街並みの再整備や回遊性を確保する中で、利便性が高く、コンパクトで快適なガーデンシティの構築
 目標1：歴史・文化・スポーツ施設や観光施設の集客力を活かした、便利で快適な賑わいのあるコンパクトな市街地の形成
 目標2：町の新たなシンボルとなる自然・歴史・文化が詰まった賑わい・交流拠点ゾーンの整備
 目標3：多様な人が出会い交流する、緑豊かで歩いて楽しいガーデンシティの構築

目標設定の根拠
 都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針）
 本町は、藩政時代に城下町として栄え、JR東北本線船岡駅を起点とした「船岡地区」と、奥州街道64番目の宿場町として栄えJR東北本線槻木駅を起点とした「槻木地区」が昭和31年に合併して誕生した。この2つの地区に加え、昭和50年代に新たな団地開発が行われた国道4号沿いに広がる「船迫地区」と、近年商業施設の集積が著しい都市計画道路大沼通線（県道114号線）沿線の「東船岡地区」を加えた4つの拠点を中心に市街地が形成され発展してきた。4つの拠点を中心とした用途地域内では、町民全体の80%が居住している地域となっている。
 しかし、増加の一途をたどってきた人口は、2005年（平成17年）をピークに減少に転じ、空き店舗、空家や空地が増え、既存市街地のスポンジ化が著しくなっている。一方で、郊外となる用途地域外においては、建築・開発件数が増加しており、既存市街地の低密度化に拍車をかけている状況となっている。また、本町の市街地は、一級河川阿武隈川とその水系となる白石川の合流点に形成されているため、市街地のほとんどが浸水想定区域となっていることから、災害リスクを考慮した市街地の誘導・形成を図る必要がある。今後さらに、これまで形成されてきた4つの拠点を持続可能な市街地として発展させていくためには、このエリアに都市機能誘導区域を設定し、町民の暮らしを支える都市施設を誘導することで、安心で快適な生活環境を整備し、誘導区域内における人口密度が40人/haとなる市街地の形成を目指す。
 公的不動産の活用策としては、柴田町公共施設等総合管理計画に基づき、すでに用地が確保され、早期建設が求められている新図書館を整備するとともに、合わせて、隣接する歴史・文化が詰まった「しばたの郷土館」に船岡公民館機能と複合化した中で、船岡城址公園エリア内の空地をみんなが集まる広場として一体的に整備し、国内外の人々が交流・連携する拠点として、また、町民等によるまちづくり活動のシンボルゾーンとしてリノベーションを図る。

まちづくりの経緯及び現況
 柴田町では、「第5次柴田町総合計画」（平成23年3月策定）において、「花のまち柴田」をテーマに、戦略的に取り組む重点施策のひとつとして「美しいまち創造プロジェクト」を掲げ、観光拠点である船岡城址公園の整備や船岡城址公園と白石川堤の一目千本桜を結ぶ「しばた千桜橋」の整備や「桜の小径公園」の整備など、通年にわたる観光地としての魅力づくりに努めてきた。また、市街地の中を桜で繋ぐ「花（桜）回廊」の整備や個人の庭園を公開するオープンガーデンを通じて、四季の花々で彩る都市空間の創造に取り組んできた。また、柴田町の名所旧跡や町民が柴田町の誇りとして選んだしばた100選を巡るフットパスコースを整備し、ウォーカブルなまちづくりにチャレンジしている。
 さらに、「第6次柴田町総合計画」（平成31年3月策定）においては、船岡、槻木、船迫、東船岡地区の4つの拠点と農村部を結ぶコンパクトプラスネットワーク型の都市構造を将来像として描き、「歩いて楽しいまちづくり」を推進することとした。さらに、図書館や総合体育館を核とした文化・スポーツ拠点を整備し、人と人、住民と観光客やインバウンド客との交流や国際交流を通した多様な生活文化の創造、街中の賑わいづくりと経済の活性化に繋げて行く計画としている。
 今回、都市再生整備計画の対象となる柴田町都市拠点（船岡）地区（以下、「当地区」という。）は、町の玄関口であるJR東北本線「船岡駅」を中心として、その徒歩圏内（800m以内）に、役場、学術拠点である仙台大学、医療、子育て施設、金融機関等が立地し、ある程度都市機能の集積が図られており、また、災害リスクについても4つの拠点の中で、最も少ない地域となっている。特に、当地区内にある船岡城址公園は、令和4年4月に、庭園間交流連携促進計画（ガーデンツーリズム）登録制度において、東北地方で初めて登録された「みやぎ蔵王ハーモニー花回廊」の主要な構成庭園となっており、今後さらなる観光客の増加が期待されている。
 また、この観光拠点と隣接して、現在暫定図書館としても活用している「ふるさと文化伝承館」や、町の歴史文化に関する資料を展示する「思源閣」、愛知県大山市の国宝「如庵」を模して建てられた茶室「如心庵（じょしんあん）」、さらに、和風庭園の中庭で構成されている「しばたの郷土館」がある。今回は、この歴史文化エリアの北側の町有地5,264㎡を活用した新図書館建設を基軸に、船岡公民館機能と複合化したしばたの郷土館、隣接する船岡城址公園エリアを一体的に整備し、賑わい・交流拠点をつくる計画としている。

課題
 (1) 当地区内にある既存の商店街は経営者の高齢化や、後継者不足や施設の老朽化によって、空店舗や取り壊しによる駐車場化が著しくなっており、街中での活気が失われている。また、高齢化や人口減少により、空家・空地が増え、当地区のスポンジ化が著しく、さらに、町の重心が東に移ったことで既存市街地の活力は年々低下している。一方で、近年、空地を利用したミニ開発が活発に行われ、市街地の様相が変わる動きもでている。
 (2) 「花のまち柴田」をテーマとした観光拠点である船岡城址公園には年々国内外からの観光客が増加しているものの、街中を回遊するための魅力ある資源の掘り起こしや仕掛けづくりが不十分なため、こうした集客力を市街地の活性化や地域経済に活かすきれていない。
 (3) 柴田町の歴史や文化が詰まったしばたの郷土館と日本さくら名所百選に選ばれた船岡城址公園は隣接しているにもかかわらず、相互の連携が十分とはいえないため、それぞれの魅力を最大限活かすきれていない。新図書館建設としばたの郷土館、船岡城址公園を一体的に整備し、再構築する中で、人と人、住民と観光客やインバウンド客との出会いや交流機会の拡大を図り、その賑わいを町全体に波及させる必要がある。
 (4) 柴田町には緑豊かで快適な空間の中で、子供から高齢者まで、一人でも、皆でも、自由な時間を楽しみ、また多様な活動が繰り広げられる町のシンボルとなるようなパブリックスペースがないため、今後、人と人をつなぐパブリックスペースを整備し、住民自らが主体的に文化活動や、まちづくり活動に関わり、新たな文化を創造するクリエイティブタウンとして市街地を再構築する必要がある。

将来ビジョン（中長期）

【第6次柴田町総合計画（2019-2026）（平成31年3月策定）】

・将来像を「笑顔があふれ 誇りと愛着を育む 花のまち」とし、四季折々の彩が美しい街並みを形成することで、「住み続けたい」、「住んでみたい」、「訪れてみたい」まちとして選んでいただけるよう、「四季折々に美しい景観の形成」「快適な公共空間の整備」、「教育・文化・交流都市の創造」などを基本目標に掲げている。具体的には、船岡駅周辺等を拠点エリアとして位置付け、魅力あふれる景観の形成や歩いて楽しい都市空間の整備、歴史的な建造物のリノベーションや新総合体育館、新図書館の整備を図ることとしている。こうした都市を舞台に、住民が主体となったイベント等を通じて、多様な人と人との交流を盛んにし、街中での賑わいづくりを通じて、創造性豊かなまちをつくることを目指している。

【柴田町都市計画マスタープラン・立地適正化計画（2020-2040）（令和4年5月策定・公表）】

〈都市計画マスタープラン〉

・都市計画マスタープランの将来像を「花と緑豊かで安心して快適に住み続けられるまち～四季折々の彩とにぎわいのあるガーデンシティ～」とし、緑豊かな自然と調和した市街地を活かし、コンパクトな市街地の形成と都市空間の高質化に取組み、四季折々の彩を身近に感じながら、便利で快適な賑わいのある都市を創造していくこととしている。

・本計画の対象地区となる船岡地区は、船岡駅を起点に、行政・商業・業務拠点、学術拠点（仙台大学周辺）、観光拠点（船岡城址公園）として位置付る一方で、東船岡地区、槻木地区、船迫地区を地域生活拠点、スポーツ拠点（総合体育館）として位置づけ、様々な都市機能の集約を図りながら、魅力的な都市空間の形成を目指すこととしている。

〈立地適正化計画〉

・基本方針として、「安全な地域への誘導によるコンパクトで持続可能なまちづくり」とし、防災指針においては、災害リスクに対する対応方針に基づき、都市機能誘導区域及び居住誘導区域を定め、持続可能な市街地の整備を目指すこととしている。

・当地区は、都市構造において位置づけられた4つの拠点うち、比較的災害リスクが少ないエリアである。また、近年、商業、医療、アパートや住宅等において、スクラップ&ビルドが著しく、市街地の形態が大きく変わろうとしているエリアとなっているため、今回の戦略的な都市政策によって、これまで以上に便利で快適な、高質化した市街地の形成を図ることとしている。

・さらに、船岡地区と隣接する東船岡地区に令和6年10月に完成する総合体育館周辺を新たなスポーツ拠点と位置づけるとともに、災害時には避難所として活用する防災機能を有する拠点としても位置付けている。

【柴田町公共施設等管理計画（2017-2056）（平成28年度策定）】

・約40年間で施設総量の約38%の削減を目標に、施設の統廃合、複合化や長寿命化を進め、年間2.3億円の縮減を図ることとしている。各施設の取扱い方針においては、新図書館としばたの郷土館は、船岡公民館との複合化を図る施設として位置づけている。

【庭園間交流連携促進計画（ガーデンツーリズム） みやぎ蔵王ハーモニー花回廊（令和4年4月登録）】

・宮城県南2市9町の自治体・民間・大学が連携し、みやぎ蔵王山麓に広がるフラワーガーデンを軸に、地域の観光資源を活用した仙南地域独自の魅力を提供するガーデンツーリズム計画が東北では初めて登録された。

【柴田町国土強靱化地域計画】

第4章 国土強靱化のための施策プログラム

第4節 本町における国土強靱化のための施策プログラム

2 大規模自然災害発生直後から救助・救急、医療活動等が迅速に行われる

2-3 想定を超える大量かつ長期の帰宅困難者への水・食糧等の供給不足

【施策プログラム】○鉄道事業者等の交通事業者と連携し、災害発生時に公共交通が不通となった場合の帰宅困難者の移動支援対策を講じる。

【重点事業】帰宅支援となる公園の再整備

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

立地適正化計画に基づき、市街地の南北に位置する「船岡駅」と仙台大学等がある「学術拠点」を結ぶ南北軸と、市街地の東西に位置する建設が決定した総合体育館を核とした「スポーツ拠点」と、今回リーディングプロジェクトによって、新図書館整備と歴史文化施設であるしばたの郷土館のリノベーション、さらに、船岡城址公園エリアの整備が図られる、柴田町の新たな交流連携のシンボルゾーンとを結ぶ東西軸が、クロスする都市構造を骨格とした市街地における、スポンジ化の解消を図る。さらに、子供や若者、高齢者まで便利で安心して暮らせる都市機能の集積、生活居住環境の向上、防災力の強化、国際交流の推進を図るための公共施設等の整備を集中的に実施することで、持続可能な質の高い都市構造に再編する。

当地区の4つの拠点をつなぐストリートとして、まち並みの修景、街路、緑地・広場やコミュニティガーデンを配置した、緑豊かなグリーンベルトやナチュラルライフゾーンの整備、また、街の魅力を発見しながら、歩く楽しさを体験するコミュニティツーリズムの舞台となるよう整備を図り、さらに、歴史・文化、景観、イベントといった地域の魅力をまるごと発信する、情報発信システムの導入や、船岡駅に観光交流センターの整備を行う。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合には記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

誘導施設の整備にあたっては、知の拠点としての新図書館建設と町の歴史や文化が詰まった「しばたの郷土館」と桜の名所「船岡城址公園」の美しい景観を連携させた中で、人と人が出会い、集えるための高質な道路・歩行空間、みんなが集い活動する公園や広場を一体的に整備し、「賑わい・交流の拠点施設」として整備を図る。新図書館については、知の拠点に加え、花のまち柴田のイメージ形成をリードする桜に関する情報発信機能を備える。新図書館を中核施設とした、賑わい・交流の拠点については、人と人、住民と観光客やインバウンド客との交流連携の場、住民の健康づくりや憩いの場、柴田町の歴史や文化、暮らしに触れまた体験する場、さらにインバウンド客等との国際交流の場、若者の起業化を支援するチャレンジショップとしても利用される新たなパブリックスペースとして整備を図る。さらに、このパブリックスペースにおいて、柴田町の将来の都市像である、美しく便利で快適なガーデンシティの創造に向けて、住民等が主体に関わることで、シビックプライドの醸成や町外から柴田町のまちづくりを応援する関係人口の拡大につなげていく。

目標を定量化する指標

| 指 標 | 単 位 | 定 義 | 目標と指標及び目標値の関連性 | | 従前値 | | 目標値 | |
|-----------------------|--------|-----------------------|---|--------|------|---------|-------|------|
| | | | | | | 基準年度 | | 目標年度 |
| 定住意向調査 | % | 柴田町にこれからも住みたいと回答する割合。 | 本事業の実施により美しく便利で快適な、市街地の形成を図り町の魅力を向上させることで、定住意向率の向上が見込まれる。 | 66.5 | R3年度 | 69 | R10年度 | |
| 新図書館の来館者数 | 人/年 | 新設図書館の1年間の来館者数 | 賑わい・交流の拠点施設の整備によって、町内及び広域圏からの新図書館利用者の増加が見込まれる。 | 27,781 | R3年度 | 72,000 | R10年度 | |
| 地域交流センター・しばたの郷土館の来館者数 | 人/年 | 地域交流センター・しばたの郷土館の来館者数 | しばたの郷土館を賑わい・交流の拠点施設としてリニューアルを図ることで、利用者の増加が見込まれる。 | 19,081 | R3年度 | 71,000 | R10年度 | |
| 船岡城址公園の来園者数 | 人/年 | 船岡城址公園の1年間の来園者数 | 歴史・文化拠点と観光拠点を一体的に整備する事で、相乗効果が生まれ、来園者数の増加が見込まれる。 | 62,780 | R2年度 | 526,425 | R10年度 | |
| 都市拠点における歩行者通行量 | 人/12時間 | 都市拠点区域内における休日歩行者通行量 | 美しく魅力的な都市空間や歩行空間を整備し、街中での賑わいを再生することで、歩行者の増加が見込まれる。 | 1,398 | R4年度 | 1,515 | R10年度 | |

| 計画区域の整備方針 | 方針に合致する主要な事業 |
|--|--|
| <p>【歴史・文化・スポーツ施設や観光施設の集客力を活かした、便利で快適な賑わいのあるコンパクトな市街地の形成】</p> <p>(1)人口減少や高齢化の影響による既存市街地のスポンジ化や商店街の空洞化、また災害に対する脆弱な都市基盤の再構築に取り組む</p> <p>(2)「花のまち柴田」を継承した新たな柴田町の将来像であるガーデンシティ構想の実現を目指し、商業、サービス事業所、金融機関、医療・介護などの生活支援施設の集積を図るとともに、総合体育館や新図書館といったスポーツ・文化施設の新設や仙台大学との連携を強化した中で、便利で快適な賑わいのあるコンパクトな市街地を整備する。</p> | <p>【提案事業】(地域創造支援事業) サイン計画策定・検討ワークショップ</p> <p>【関連事業】(柴田町事業) 官民連携による総合体育館整備事業</p> <p>【関連事業】(仙南地域広域行政事務組合事業) 柴田消防署移転事業</p> |
| <p>【町の新たなシンボルとなる自然・歴史・文化が詰まった賑わい・交流拠点ゾーンの整備】</p> <p>(1)都市の再生整備を図るリーディングプロジェクトとして、知の拠点である新図書館建設を中核として、歴史や文化の拠点であるしばたの郷土館や桜で有名な観光拠点である自然豊かな船岡城址公園が一体化した、高質な道路や歩行空間を備えたパブリックスペースを整備する。</p> <p>(2)こうしたパブリックスペースに多くの人が集まり、人と人、住民と観光客やインバウンド客との交流・連携を図る中で、柴田町の魅力を発見し、研ぎをかけ人を呼び込む賑わいづくりを演出するまちづくり活動のメッカとして、住民の活動舞台を設える。さらに、柴田町の自然・歴史・文化・行事を体感することで柴田町との絆を深め、柴田町のまちづくりを応援する関係人口の拡大を図る。</p> <p>(3)屋内子ども遊び場を通じて子どもからお年寄りまでの世代間のつながりを深めるとともに、情報メディア環境が整ったギャラリーやフリーミーティングルームを整備し、自然・歴史・文化等に係わる町民の発表の場、学習体験や創作活動の場として再構築する。さらに、まちづくり推進センター ゆるぶらの機能を移転し、新図書館や思源閣と連携しながら、住民主体のまちづくりやボランティア活動を支援するの拠点とする。</p> | <p>【基幹事業】(誘導施設・教育文化施設) 新図書館整備事業</p> <p>【基幹事業】(公園) 船岡城址公園整備事業</p> <p>【基幹事業】(既存建造物活用事業・観光交流センター・地域交流センター) 船岡駅観光交流センター整備事業</p> <p>【提案事業】(まちづくり活動支援事業) 地域交流センター整備事業</p> <p>【提案事業】(地域創造支援事業) 拠点整備・図書館整備ワークショップ</p> <p>【関連事業】(既存施設除却事業) しばたの郷土館再整備事業</p> <p>【関連事業】(既存施設除却事業) 船岡公民館除却事業</p> |
| <p>【多様な人が出会い交流する、緑豊かで歩いて楽しいガーデンシティの構築】</p> <p>(1)新たな賑わい・交流拠点ゾーンの整備による集客力の向上を街中に波及させるために、街路、緑地や広場をポケットパークとして整備し、これらをクリーンインフラで結び、緑豊かで高質な歩行空間を形成する。また、魅力あふれた個々の商店等との連携を図りながら、まちづくり活動やマルシェ、イベント等の地域情報を提供する情報板や観光交流センターを設置することで、歩いて楽しいクリエイティブな街並みを創出する。</p> <p>(2)多くの住民が新たなシンボルゾーンの形成や魅力溢れるガーデンシティの整備に関わることで、住民自らがまちづくりに関心を持ち、さらに、都市の再生に向けて主体的に行動する気運を盛り上げていく中で、柴田町のシビックプライドを醸成する。</p> | <p>【基幹事業】(地域生活基盤施設・緑地) ポケットパーク整備事業</p> <p>【基幹事業】(高質空間形成施設・緑化施設等) 町道船岡西7・8・11号線整備事業</p> <p>【基幹事業】(地域生活基盤施設・情報板設置) 情報板整備事業</p> <p>【基幹事業】(既存建造物活用事業・観光交流センター) 船岡駅観光交流センター整備事業</p> |
| <p>その他</p> | |
| <p>【その他官民協働の取り組み事例】</p> <p>○しばた歴史観光ガイドの会 平成23年度から平成28年度にかけ、5年を目途に、町主導により歴史観光ガイド育成事業に取り組んだ。その後、参加者から「活動を継続したい」という自発的な意見が強まり、参加者自らが「しばた歴史観光ガイドの会」を設立。通年にわたりまち歩きガイドを行っているほか、町主催の行事に併せて、まち歩きイベントを開催している。</p> <p>○しばた100選の選定 まちづくり提案制度を活用し「伝えたい・残したい・自慢したい・しばたの宝もの」をテーマに地域資源を募集し、855点もの応募の中から、専門家目線ではなく町民目線による「100の宝もの」を選定した。さらに「しばた100選」宝物マップ等も作成し、地域資源の発掘作業を行っている。</p> <p>○しばたのオープンガーデンと柴田町花の丘ガーデニングクラブによる庭園管理 「花のまち柴田」をテーマに、魅力あるまちづくりを推進するための一環として、町民の庭園や里山を公開するオープンガーデンを実施している。町内公園での植栽会や船岡城址公園内の「コミュニティガーデン花の丘柴田」を会場にガーデニングのつどい等を開催している。船岡城址公園頂上付近では、ボランティア団体である「柴田町花の丘ガーデニングクラブ」が手作りによるコミュニティガーデンを開設し、適切な庭園管理によって、年間を通じて船岡城址公園を訪れる人々を楽しませている。</p> <p>○しばたJAM+JAM手作り市 レザークラフトや布小物、各種アクセサリ等の手づくり雑貨の販売やワークショップなどを行う店舗が出店するほか、小中高生などが飲食ブースを出店し、商業体験ができる市民主催のイベント。平成27年7月に「しばたの郷土館の中庭」を会場に初めて開催して以来、様々な人々が参加し、体験や交流できるイベントとして、単独開催のほか、図書館まつりと合わせた合同イベントも含め9回開催している。</p> <p>○仙南バーガーフェス コロナ禍で経営が悪化している飲食業者を支援し、かつ低迷している町内の観光を盛り上げるため、本計画で、新図書館建設予定地となっている公共用地を会場に、町内及び仙南地域の飲食店がオリジナリティーあふれるハンバーガーを提供する飲食イベント。町の協働事業の一環である「まちづくり提案制度」において、令和3年10月に住民からの提案事業として採択された。住民主体の企画運営による開催で人気を博している。</p> <p>【関連事業の説明】</p> <p>○官民連携による(仮称)柴田町総合体育館整備事業(柴田町事業) 柴田町がPPP手法による公募型プロポーザル方式により、町の要求水準を満たすことを条件として、事業者側の企画提案内容での包括事業契約(20年間)を締結。 総事業費:40億6,330万円/事業計画期間:令和4年度から令和23年度(20年間)。令和6年10月にオープン予定。</p> <p>○柴田消防署移転事業(仙南広域行政事務組合事業) 本事業に関連して移転集約される船岡公民館の跡地を活用して、老朽化等が進む柴田消防署を移転・新設することで、防災活動拠点としての機能強化を図る。</p> | |

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(第2世代交付金活用事業)

様式(1)-④-1

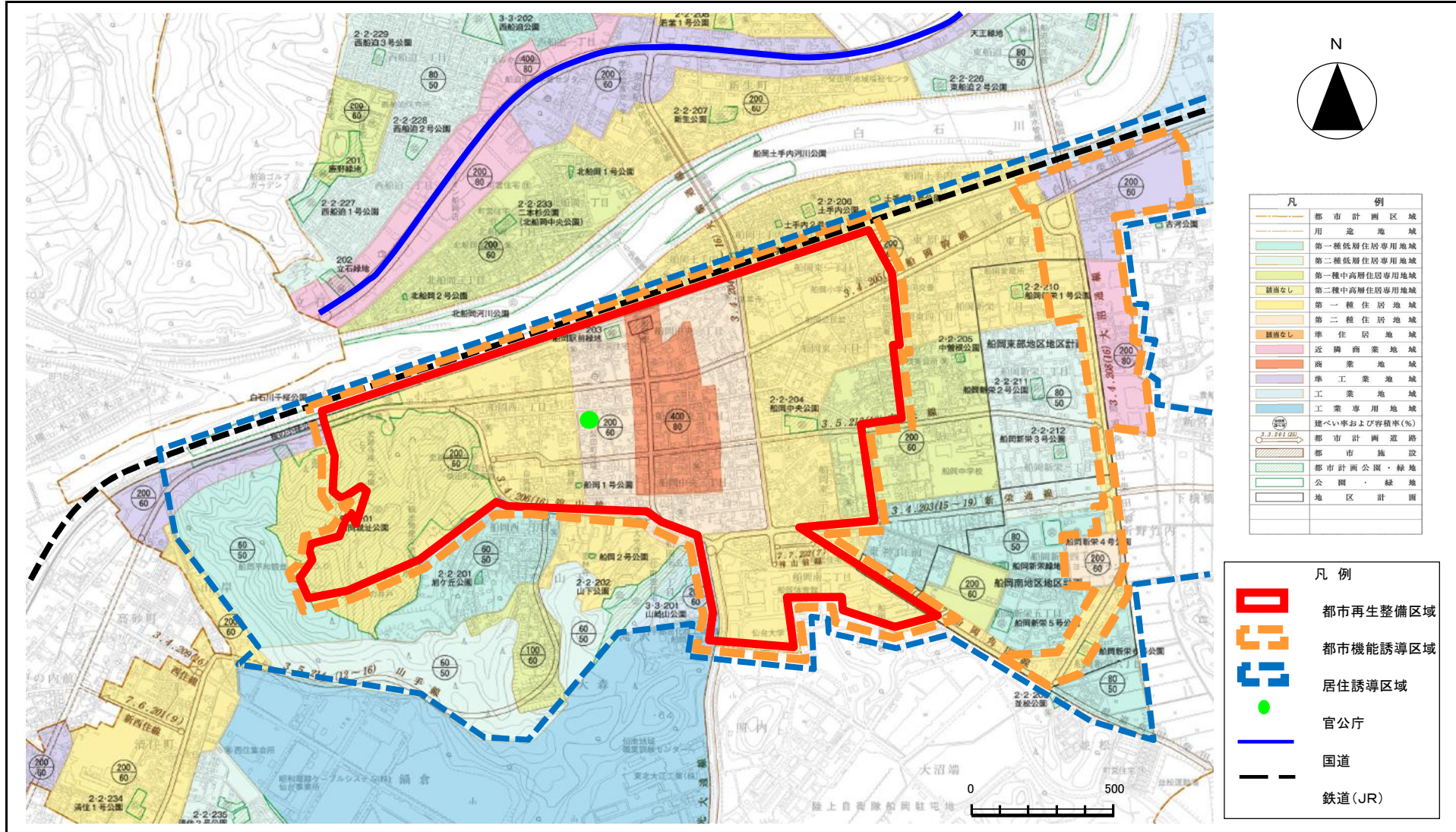
| | | | | | |
|---------|---------|-------|-------|-----|-----|
| 交付対象事業費 | 1,917.5 | 交付限度額 | 958.7 | 国費率 | 0.5 |
|---------|---------|-------|-------|-----|-----|

(金額の単位は百万円)

| 基幹事業 | | 事業箇所名 | 事業主体 | 直/間 | 規模 | (参考)事業期間 | | 交付期間内事業期間 | | (参考)全体事業費 | 交付期間内事業費 | うち官負担分 | うち民負担分 | 交付対象事業費 | 費用便益比B/C | | |
|--------------|---------------|-----------------|------|-----|------------|----------|------|-----------|------|-----------|----------|---------|-----------|---------|----------|------|------|
| 事業 | 細項目 | | | | | 開始年度 | 終了年度 | 開始年度 | 終了年度 | | | | | | | 開始年度 | 終了年度 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道路 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公園 | | 船岡城址公園 | 柴田町 | 直 | 4000㎡・305m | 7 | 9 | 7 | 9 | 244.0 | 244.0 | 244.0 | | 244.0 | - | | |
| 古都保存・緑地保全等事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 河川 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 下水道 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 駐車場有効利用システム | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域生活基盤施設 | 情報板 | 船岡駅前広場ほか | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域生活基盤施設 | 緑地 | 船岡新栄緑地ポケットパーク | | | | | | | | | | | | | | | |
| 高質空間形成施設 | 緑化施設等 | 町道船岡西7・8・11号線 | 柴田町 | 直 | 300m | 7 | 9 | 7 | 9 | 59.6 | 59.6 | 59.6 | | 59.6 | - | | |
| 高次都市施設 | 地域交流センター | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 観光交流センター | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | テレワーク拠点施設 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 子育て世代活動支援センター | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 複合交通センター | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 誘導施設 | 医療施設 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 社会福祉施設 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 教育文化施設 | 図書館 | 柴田町 | 直 | 1,640㎡ | 7 | 9 | 7 | 9 | 1,435.3 | 1,435.3 | 1,435.3 | | 1,435.3 | - | | |
| | 子育て支援施設 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 元地の管理の適正化 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基幹的誘導施設 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 既存建造物活用事業 | 観光交流センター | (仮称)船岡駅観光交流センター | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 地域交流センター | (仮称)まちなか交流センター | 柴田町 | 直 | 1,321㎡ | 8 | 9 | 8 | 9 | 168.6 | 168.6 | 168.6 | | 168.6 | - | | |
| 土地区画整理事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 市街地再開発事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 住宅街区整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| バリアフリー環境整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 優良建築物等整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 住宅市街地総合整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 街なみ環境整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 住宅地区改良事業等 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 都心共同住宅供給事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公営住宅等整備 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | 1,907.5 | 1,907.5 | 1,907.5 | 0 | 1,907.5 | 1.7 | …A | |
| 提案事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 細項目 | 事業箇所名 | 事業主体 | 直/間 | 規模 | (参考)事業期間 | | 交付期間内事業期間 | | (参考)全体事業費 | 交付期間内事業費 | うち官負担分 | うち民負担分 | 交付対象事業費 | 費用便益比B/C | | |
| | | | | | | 開始年度 | 終了年度 | 開始年度 | 終了年度 | | | | | | | | |
| 交付対象事業費 | 費用便益比B/C | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域創造支援事業 | しばたの郷土館再整備事業 | | 柴田町 | 直 | | 9 | 9 | 9 | 9 | 10 | 10 | 10 | | 10 | | | |
| 事業活用調査 | サイン計画策定 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事後評価 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 通行量モニタリング調査 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| まちづくり活動推進事業 | 拠点・図書館整備WS | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | イベント開催支援 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | 10 | 10 | 10 | 0 | 10 | | …B | |
| 居住誘導促進事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業 | 細項目 | 事業箇所名 | 事業主体 | 直/間 | 規模 | (参考)事業期間 | | 交付期間内事業期間 | | (参考)全体事業費 | 交付期間内事業費 | うち官負担分 | うち民負担分 | 交付対象事業費 | 費用便益比B/C | | |
| | | | | | | 開始年度 | 終了年度 | 開始年度 | 終了年度 | | | | | | | | |
| 交付対象事業費 | 費用便益比B/C | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 居住誘導促進事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | …C | |
| | | | | | | | | | | | | | 合計(A+B+C) | 1,917.5 | | | |

柴田町都市拠点(船岡)地区(宮城県柴田町)

面積 126.9 ha 区域 船岡中央1~3丁目、船岡西1~2丁目の一部、船岡東1~3丁目の一部、大字船岡の一部



柴田町都市拠点(船岡)地区(宮城県柴田町) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

| | | | | |
|----|--|--------|-------------------------|---------------------------------|
| 目標 | 大目標：都市機能の集積による街並みの再整備や回遊性を確保する中で、利便性が高く、コンパクトで快適なガーデンシティの構築 目標1：歴史・文化・スポーツ施設や観光施設の集客力を活かした、便利で快適な賑わいのあるコンパクトな市街地の形成 目標2：町の新たなシンボルとなる自然・歴史・文化が詰まった賑わい・交流拠点ゾーンの整備 目標3：多様な人が出会い交流する、緑豊かで歩いて楽しいガーデンシティの構築 | 代表的な指標 | 定意向調査 (%) | 66.5 (R3年度) → 68.5 (R10年度) |
| | | | 新図書館の来館者数 (人/年) | 27,781 (R3年度) → 72,000 (R10年度) |
| | | | しばたの郷土館の来館者数 (人/年) | 19,081 (R3年度) → 71,000 (R10年度) |
| | | | 船岡城址公園の来園者数 (人/年) | 62,780 (R2年度) → 526,425 (R10年度) |
| | | | 都市拠点における歩行者通行量 (人/12時間) | 1,398 (R4年度) → 1,515 (R10年度) |

